

水辺空間活用（舟運）ワーキング 第3回 議事要旨

1 日時・場所

平成28年1月29日（金） 15:00～16:30

東京都庁第一本庁舎33階特別会議室S6

2 委員一覧

別紙 名簿のとおり

3 議題

（1）来年度の社会実験について

4 主な発言要旨

〔清水教授（主査）〕

- ・ これまでに運航をしていたが、今は廃止した航路について、なぜ廃止されたか理由を検証すべき。
- ・ 船着場とその周辺をどう作り上げていくかが大事。これは公共的要素が強いのので戦略が必要である。交通の需要は発生需要と本源的需要の2種類であるが、船は本源的需要も持ち合わせている。乗船前後の移動先で何ができるかを考えてトータルの魅力で舟運を使っていくことが大事。
- ・ 採算性の検証に関しては、社会実験で料金を変えてみるというのはどうだろうか。例えば船内サービスを変えたときに、どれくらいの支払意思があるのかとか、昼間と夜とで支払意思がどれくらいの差があるのかとか等、支払意思について経済学的に把握する必要があると思う。
- ・ 単年度では実施が難しいものがある。取組を継続させる中で各年次で何をやるのかというイメージを構造化する必要がある。また、オリンピックレガシーとしてどのような展開を図るかを示すべきだと思う。レガシーとしてつなげていくための一歩としてこの社会実験があるということが大事だと思う。

〔篠原准教授〕

- ・ 一番大切なのは、船を降りた後のソフトのコンテンツをどうつなぎ込めるかということに尽きる。具体的にここでどのような受けを行っていただくことができるのかという議論をすぐにも始めていただきたい。
- ・ こうした取りまとめを行う組織のことであるが、多角的に総括していくためには相当の力量がなければ難しいので、この辺の組織化と我々が積極的に関わっていけるような体制を作らないといけない。
- ・ 船の業界も新たな活性化を図っていく良い機会だと思うので、継続した事業化につながるよう考えてほしい。また、舟運事業者も下船後のつながりやメニューを積極的に考えていく段階だと思う。
- ・ 長い航路では、船内での過ごし方の提案が必要だと思う。船内で案内するガイドは専用でできるような講習会を開くなど、ソフトの充実が大事だと思う。
- ・ 地元の方々が船が我々のまちにも来るという盛り上がりやわくわく感が出るよう、事前に試乗会をやるなど、我々の船だというような当事者意識につなげる仕掛けも必要。

〔中央区〕

- ・団体客が多く訪れる観光スポットにおいて貸切バスの路上混雑の問題が発生している。観光バスの乗降時間は、降りるときはスムーズだが、乗るときに乗客全員がなかなか集まらず時間がかかる傾向がある。舟運との接続で、観光スポット付近の船着場から船に乗って、水辺を楽しんでもらい、別の船着場で船から降りて、貸切バスに乗ってもらうというアイデアも出ているようなので、連携が図れたらと思う。

〔港区〕

- ・自転車シェアリングに関してだが、港区と中央区、千代田区、江東区の4区で相互乗り入れを開始することもあり、全区的にサイクルポートの確保を推進しているところである。交通結節点となる主要駅近傍は当然であるが、船着場についてもサイクルポートを設置して交通手段として利便性の向上を図るなど、舟運とコミュニティサイクルとの連携を考えていきたい。

〔江東区〕

- ・長距離の航路となるものは荷物の扱いの検証やロングトリップに対して利用者がどのように考えているのかを検証する必要がある。
- ・江東区ではユニバーサルデザインのまちづくりを進めており、その中で棧橋もその視点で利用性について検証した。オリンピックに向けては健常者だけでなく対応の検証も必要と考えている。

〔品川区〕

- ・品川区としても来年度社会実験をやろうと考えている。区内の舟運事業者に聞くと、案内サインの不足やルートに魅力がないということで、橋のライトアップや護岸の修景という提案をいただいている。まさにここに挙げられている施策の中身が区でやる舟運の社会実験の中身とリンクすることになるため、地元区とパートナーというお話があったが、積極的に連携を図っていきたいと考えている。

〔日本旅行業協会〕

- ・関東支部としては国内旅行委員会というものもあり、そちらは国内の旅行販売など実務の方が参加している。新年度の活動を計画しているのでインバウンドだけでなく国内旅行として舟運の活用についても検討していきたいので情報提供をお願いしたい。

〔東京湾遊漁船業協同組合〕

- ・今までなかった航路であり、我々も未知の世界。利益が出るか出ないかも、今後の取組の中で検証していくことであると認識している。

〔屋形船東京都協同組合〕

- ・運航に関していう、通年となると天候の問題であるとか、棧橋自体が係船しやすい設備にはなっていないという問題が出てくると思う。
- ・全ての棧橋がお客様を降ろすだけの棧橋になっていると感じる。その棧橋に降りる目的を作っていけばお客様を誘導しやすいし、降りていただくあるいは乗っていただくということが可能だと思う。
- ・護岸がコンクリートむきだしの部分かなりあり、船に乗りながら水の上の目線から街を見ながら周りの景色が綺麗で場所が分かるようなことにさせていただくといいと思った。

〔東京観光遊漁船協議会〕

- ・ 船着場でのお客対応が非常に大事だということである。船着場によりお客様の考えや嗜好が違^しう。チケットを売るだけではなくスタッフの方でももう少し勉強していかないといけない。
- ・ 特に観光文化施設や他の交通機関、自転車等との連携は重要である。

〔事務局〕

- ・ 船着場を降りた後のまちなかとの連携についても、周辺にある文化施設や観光資源にもスポットを当てて利用者の方々に情報提供することで、まちなかの人を水辺に、水辺の方々をまちなかという回遊性を求めていきたいと考える。その際には船だけの問題だけでなく、商店街の方々等とどのように連携させていただけるか等、しっかりと社会実験の中で模索しながら進めさせていただきたいと考えている。
- ・ 事業者の採算性の検証は重要な点と考えている。事務局としては、28年度は、まずはできるだけ多くの方に東京の舟運を知っていただき、需要を把握し、29年度に通年型運航に移行した後、事業採算性の部分を把握したい。舟運事業者との意見交換も重ね、民業としての事業モデルの構築を図りたい。

以上

水辺空間活用（舟運）ワーキンググループ（第3回）参加者名簿

	役 職 名	委員名	備 考
主 査	首都大学東京大学院都市環境科学研究科教授	清水 哲夫	
専門アドバイザー	跡見学園女子大学観光コミュニティ学部観光デザイン学科准教授	篠原 靖	
委 員	東京都政策企画局調整部技術政策担当課長	小原 誠司	
委 員	東京都政策企画局計画部計画担当課長	池田 庸	
委 員	東京都都市整備局都市基盤部交通政策担当課長	末元 清	代理
委 員	東京都都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長	井川 武史	
委 員	東京都産業労働局観光部振興課長	若林 和彦	代理
委 員	東京都建設局河川部指導調整課長	城田 峰生	代理
委 員	東京都建設局河川部低地対策専門課長	岡上 樹	欠席
委 員	東京都港湾局港湾経営部監理担当課長	吉田 憲治	
委 員	東京都港湾局港湾整備部環境対策担当課長	儀間 潔	
委 員	千代田区環境まちづくり部 麹町地域まちづくり課長	金子 修	欠席
委 員	中央区区民部 商工観光課長	田中 智彦	
委 員	中央区環境土木部 水とみどりの課長	溝口 薫	代理
委 員	港区街づくり支援部 交通対策担当課長	西川 克介	
委 員	港区芝浦港南地区総合支所 まちづくり担当課長	村上 利雄	欠席
委 員	港区産業・地域振興支援部 観光政策担当課長	重富 敦	欠席
委 員	台東区都市づくり部 都市計画課長	望月 昇	
委 員	墨田区都市整備部 都市整備課長	齋藤 雄吉	
委 員	墨田区産業観光部 観光課長	金子 明	
委 員	江東区都市整備部 まちづくり推進課長	天野 清和	
委 員	一般社団法人 江東区観光協会 事務局長	青柳 幸恵	
委 員	品川区防災まちづくり部 河川下水道課長	和田 淳	
委 員	大田区まちづくり推進部 空港臨海部調整担当課長	浦瀬 弘行	代理
委 員	江戸川区土木部 水とみどりの課長	多賀 美代	代理
委 員	日本旅行業協会 関東事務局事務局長	鈴木伸一	
委 員	関東旅客船協会 事務局長	西牧秀夫	
委 員	屋形船東京都協同組合 理事長	佐藤 勉	
委 員	東京湾遊漁船業協同組合 理事長	飯島 正宏	
委 員	東京観光遊漁船協議会 会長	島田 誠一	